

令和 7 年度

第 1 回 滝川市地域包括支援センター運営協議会

(書面会議)

次 第

1. 議 事

- | | |
|---|-----------|
| (1) 令和 7 年度 第 1 回滝川市地域包括支援センター運営協議会
報告内容要旨 | (P1～P2) |
| (2) 令和 6 年度 滝川市地域包括支援センター事業報告 | (P3～P11) |
| (3) 令和 6 年度 認知症初期集中支援チーム活動報告 | (P12～P13) |
| (4) 令和 6 年度 地域ケア個別会議実施報告 | (P14～P15) |
| (5) 令和 7 年度 滝川市地域包括支援センター事業計画 | (P16～P25) |
| (6) 令和 7 年度 滝川市地域包括支援センター事業予算概要 | (P26) |

令和6年度 滝川市地域包括支援センター事業報告について

- ・総合相談や予防計画作成実績については、大きな変化は無くほぼ横ばいであった。総合相談件数が微増しているのは、高齢者実態調査が順調に進んだことによる実態把握数の増と、退院時のサービス調整依頼など医療機関からの相談の増によるものと思われる。研修会や会議等は、関係者向けはオンライン開催が多くなっているが、一般市民向けは対面により開催することができた。
- ・認知症事業として、三世代交流センターにおいて、月1回誰でも気軽に集まり、おしゃべりや個別相談ができ、チームオレンジが活躍する場を目指して、「街のおしゃべりサロン elua（エルア）」を開始したが、チームオレンジの主体的な参加も進まず現体制での継続が難しいことから、一旦休止し今後についてはチームオレンジが主体的に考え参加できる形に再編する。
- ・自立支援型サポート会議の中で、高齢女性の骨粗鬆症が共通の課題として多く見受けられたため、在宅医療介護連携研修会においてテーマとして取り上げ、関係者の学習する機会とした。
- ・組織改革により、地域包括支援センターを介護支援係と介護予防係の2係体制とし、生活支援体制整備事業を介護予防係に移管、生活支援コーディネーター1名を増員した。これまでと業務内容に大きな変化はなく、両係連携して業務を行った。介護支援専門員は、令和6年度途中に新規採用でき人員体制が整った。

令和7年度 滝川市地域包括支援センター事業計画について

【全般を通して】

- ・介護予防係に理学療法士1名を新規採用。介護支援係の社会福祉士1名が前年度途中で退職となったが、今年度新卒者1名を採用。新採用職員が早く業務に慣れて、段階を踏んで成長できるよう、支援しながら全体のレベルアップをはかっていく。

【認知症事業について】

- ・これまで、職員がお膳立てをして参加する流れとなっていたが、できるだけ認知症ご本人やチームオレンジボランティアがご本人のしたいことの実現へ向けて、主体的に自分達で考えていけるよう、「おれんじの会」としてミーティングを開催、その中で認知症本人の会「すまいるゴー」の企画や準備をチームオレンジメンバーで行う。

【生活支援体制整備事業について】

- ・地域支援事業実施要綱改正により、大きく方向転換がなされており、今年度からは介護支援専門員と連携した虚弱者や要支援者に対するニーズと取組のマッチングに力を入れる。地域包括支援センターの介護支援専門員から話を聞き、ニーズの把握と地域資源の発掘・開発につなげていく。

【介護予防支援事業所について】

- ・介護予防計画作成にあたり、医療機関の受診や治療の状況などは重要な情報であるが、本人からの聞き取りでは正確に把握できないことも多いことから、介護福祉課内に国保データ連携システムを導入し、滝川市国保並びに後期高齢者医療保険加入者の医療情報を把握できるようにして、介護予防計画作成に活かす。

【いきいき百歳体操について】

- ・江部乙地区の体操参加者で、冬期間は会場までの移動が困難で、体操を休み虚弱となる高齢者が散見していることから、参加者の送迎実施へ向けての制度設計を行う。北海道のアドバイザー派遣事業に応募、助言を得ながら進めていく。

令和7年度 滝川市地域包括支援センター事業予算概要について

- ・全般的に予算額が増加しているのは、人事院勧告に基づく人件費の増加分が主な理由であり、事業費においては、ほぼ前年度並みの予算計上となっている。

【任意事業】

- ・成年後見利用支援事業において、今年度は市民後見人養成講座を開催しないため、前年度より 1,500 千円減額して計上。

【介護予防支援事業所】

- ・介護福祉課内に国保データ連携システムを導入するための必要経費として、使用料と備品購入費 603 千円を計上。歳入は、近年の予防計画作成件数を踏まえて積算し増額している。

令和6年度 滝川市地域包括支援センター事業報告

◎ 介護支援係

1. 総合相談支援

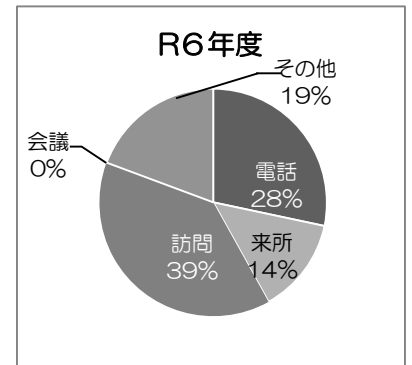
高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続できるよう介護サービスにとどまらない、保健医療福祉機関又は制度の利用につなげる等の総合的な支援を行った。

(1) 相談件数（単位：件）

6年度	2,204
5年度	1,981

(2) 相談形態（単位：件）

	電話	来所	訪問	会議	その他	合計
6年度	624	300	852	3	425	2,204
5年度	581	301	771	4	324	1,981



(3) 相談者区分（単位：人）

	本人	家族	民生委員等	地域団体	医療機関	警察	実態把握	その他	計
6年度	260	339	55	205	157	31	1,118	39	2,204
5年度	235	358	52	209	125	29	926	47	1,981

(4) 相談内容区分（重複あり）（単位：件）

	介護日常生活相談	医療に関する相談	権利擁護相談	実態把握	介護予防事業	苦情相談	SOS関連	その他	計
6年度	950	140	29	1,121	25	2	3	165	2,435
5年度	1,002	135	38	923	4	1	2	142	2,247

(5) 対応内容区分（重複あり）（単位：件）

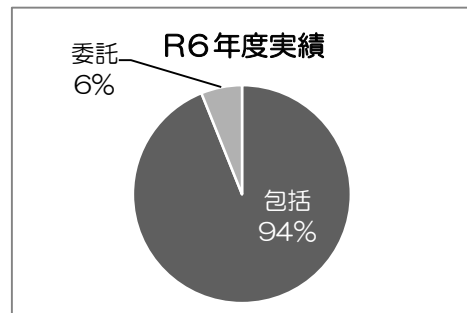
	相談・情報提供	ケース会議	連絡調整	家庭訪問	申請代行	SOS関連	調査訪問	その他	計
6年度	1,534	21	1,036	602	61	1	1,095	128	4,478
5年度	1,549	16	1,114	614	88	2	860	180	4,423

2. 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2、事業対象者がより自立した生活を送れるために、適切な介護予防サービス等が提供されるよう、予防サービス計画を作成した。

(1) 予防計画作成実績 (単位: 件)

	包括	委託	合計
6年度	6,557	425	6,982
5年度	6,645	449	7,094

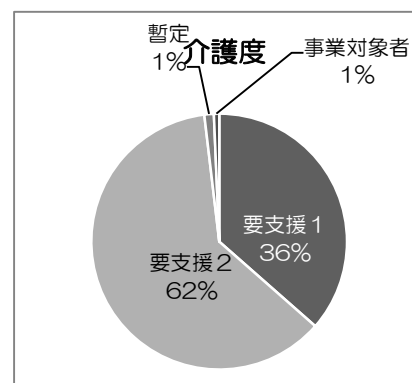


令和6年度指定介護予防支援・介護予防委託業務事業所 (R7年3月末現在)

- ・有限会社 ケア・コラボレートK・H
- ・医療法人社団 新緑会 文屋内科消化器科医院
- ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会
- ・医療法人 シーザース・メディ・ケア
- ・特定非営利活動法人 縁 (釧路市)
- ・医療法人社団 曙 (札幌市)

(2) 介護度 (単位: 人)

	要支援1	要支援2	暫定	事業対象者	合計
6年度	2,549	4,303	84	46	6,982
5年度	2,833	4,096	75	64	7,068



(3) 担当者会議開催数 (単位: 回)

6年度	767
5年度	768

3. 一般介護予防事業

(1) ますますげんき教室

閉じこもり・うつ予防や運動機能向上のため、週1回の外出の機会を設けた。
通所により運動機能向上・栄養改善・口腔機能向上、人との交流を図った。

ますますげんき教室参加者数 (単位: 回・人)

	開催回数	実人数	延人数
6年度	78	32	761
5年度	80	30	787

新規通所者内訳 (単位: 人) 通所開始理由

	本人から	家族から	知人・近所から	関係機関から	実態調査から	計
新規通所者	2	2	3	0	3	10

ますますげんき教室通所者の経過 (単位: 人)

	6年度	5年度	
改善	1	0	地域体操教室への参加
介護認定	4	4	介護認定へ移行
辞退	1	3	体調不良
維持	26	23	次年度も通所継続
合計	32	30	

(2) 市民出前講座

(単位：回・人)

	開催回数	参加者数
6年度	4	59
5年度	2	48

- 第1回 9月10日 認知症について
民生委員児童委員連合協議会研修会心身障がい福祉部 11人
- 第2回 9月22日 高齢者の保健・福祉・介護サービス利用について
みんなの食卓 20人
- 第3回 10月29日 認知度を低下させない日常生活について、物忘れ相談プログラム
西和はつらつG・Bの会 14人
- 第4回 2月26日 地域の高齢者を支えるために
民生委員児童委員連合協議会北地区定例会 14人

(3) 介護予防サロン事業

高齢者の健康の維持、要介護の予防につながる住民主体の通いの場の開催者に対し、高齢者の参加人数に乗じた補助金を交付し、開催の支援を行った。

	ライフサポート運営委員会		リボーンの会	
	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数
6年度	175	3,307	212	5,309
5年度	263	4,739	225	5,477

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の介護支援専門員の指導や支援のほか、高齢者が住みやすい地域にするため、関係機関とのネットワークづくりを行った。

(1) ケアマネージャーの相談窓口

加算事業所と合同で定例のケース会議を開催し、困難事例への対応を検討した。

ケース会議実績 (単位：回・件)

	回数	検討事例
6年度	5	5
5年度	3	3

対面で事例検討会を行う。

その他、随時、ケアマネージャーからの相談に応じている。(相談支援4事例)

(2) 関係機関ネットワーク会議

2か月に1回全てオンラインで開催し、ミニレクチャーや情報交換を行った。(年6回開催)

関係機関ネットワーク研修会を開催した。

実施日	テーマ・講師	参加者
10月30日	講義：今を生きるケアラー・ヤングケアラー～その支援の在り方～ 社会福祉法人光が丘学園 光が丘子ども家庭支援センター 主任相談員・ヤングケアラーコーディネーター 浅沼 寿実氏	31人

(3) 在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療と介護連携に関する地域の課題を抽出し、その対応策を検討することを目的に、市内の医療・介護に関する関係者が集まる推進会議を年1回開催した。

医療との連携について小規模多機能型居宅介護の立場からの事例提供、令和5年度口腔・栄養アセスメントシート結果報告を行い、意見交換を行った。

介護福祉関係者が医療について学ぶ機会として、在宅医療介護連携推進研修会を実施した。

実施日	テーマ・講師	参加者
11月14日	講義：骨そしょう症の基礎知識と治療 滝川市立病院内科医師 番場 真珠美氏	74人

(4) 滝川市高齢者見守り安心ネットワーク

関係機関、団体、民間事業者など123機関の協力を得て、社会全体で見守り意識の向上を図った。
滝川市の高齢者の見守り実績報告、事例報告を行う会議を書面で行った。

(5) 生活支援体制整備事業

高齢者が増加する中、多様な生活支援・介護予防サービスを利用できるような地域づくりを目指し生活支援コーディネーターが生活支援体制整備事業の基盤づくりとして、他地域のコーディネーターとの情報交換やオンライン研修会への参加、認知症事業への協力・参加、地域の通いの場へ出向いての情報収集を行った。また、高齢者との交流を望む大学・専門学校生と地域の通いの場・認知症事業をつなぐ学生ボランティア「チアフル」、介護・看護に興味のある市内高校生と高等看護学院1年生が、認知症普及啓発イベントの企画・準備・運営を通して、認知症への理解・他世代間の交流・イベント企画のスキルアップをはかる「ケアLabo」を実施した。

江部乙地区第2層協議体では、住み慣れた地域で安心して暮らすことを目的に介護予防を学ぶ「健康セミナー」の開催、「乙な集い」を実行委員会と共に共同で開催した。(健康セミナー68人 乙な集い99人)

生活支援コーディネーター活動状況(単位：回)

	生活支援体制整備事業							認知症総合支援事業		合計
	1・2層協議体	3層通いの場情報共有ほか	地域相談・情報共有	他市町村・庁舎内など情報共有	学生ボランティア・高看護連携事業	会議・研修	情報発信	事業・会議・研修ほか	情報発信	
6年度	24	123	6	40	75	233	10	273	11	795
5年度	31	64	10	8	57	101	27	141	32	471

5. 認知症対策関連事業

(1) 物忘れ相談・物忘れ相談プログラムによる認知症チェック

認知症普及啓発月間や年金支給月に合わせて、物忘れ相談プログラムを活用し、物忘れの自己チェックや認知症に関する知識の普及啓発を図った。物忘れが気になる方や病院に行くほどでもないと思っている方などに、予約制の個別相談を行い、より詳しいプログラムを実施したほか、必要に応じた受診勧奨を行った。(来所相談44人 地域相談57人)

(2) 国民健康保険・後期高齢者脳ドック検査事後訪問

国民健康保険・後期高齢者医療保険加入者を対象に行う脳ドック検査受診者のうち、要再検・精検者又は長谷川式簡易知能評価スケール24点以下の人に対し、訪問を実施したほか、軽度認知障害(MCI)に対応するため25点、26点の人に対し電話による状況確認を行った。

脳ドック検査事後結果(単位：人)

	検査実施数	事後対象数	確認結果		
			治療	経過観察	受診勧奨
6年度	123	24	2	9	6

(3) 認知症カフェの開催

認知症の方やその家族、地域住民、専門職が気軽に集まり認知症や介護について意見交換できる「認知症カフェ」の運営支援を行った。市内の家族会、地域ボランティア団体が月1～2回開催。グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅は新型コロナウイルス感染拡大後、実施を見合わせている。

認知症カフェ実施数（単位：回・人）

	ともだちカフェ		カフェあけぼの		にんかふえ		地域のお茶会 in コスモス		駅カフェ・ 陽だまりカフェ	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
6年度	休止中		24	344	休止中		2ヶ月に1回開催		24	659
5年度	休止中		24	392	休止中		休止中		23	775

6年度合計 回数 48回 参加数 1,003人 5年度合計 回数 47回、参加数 1,167人

(4) 認知症啓発月間活動

9月21日の世界アルツハイマーデーに合わせて、9月を認知症啓発月間と位置づけ、認知症普及啓発イベント「おれんじフェスタ」を開催した。(227人参加)

(5) 認知症サポーター養成講座

認知症について、研修を修了したキャラバン・メイトが、認知症についての理解と地域での見守り支援の普及啓発の為、認知症サポーター養成講座を実施。地域の会場では、物忘れ相談プログラムと組み合わせて実施。これまで講座を受講したことのある人が更に学びを深める場として、ステップアップ講座を開催。

認知症サポーター養成講座実施数（単位：回・人）

	開催回数	受講者数
6年度	5	136
5年度	4	101

※H18～3,927人養成

ステップアップ講座実施数（単位：回・人）

	開催回数	受講者数
6年度	1	20
5年度	1	19

(6) オレンジ倶楽部

認知症サポーター養成講座を受講した方の中で、希望者に対し「おれんじ通信」を発行し、認知症の知識や認知症に関する活動の紹介を実施した。実際に何かの活動をしたいと思う方には、ステップアップ講座受講とチームオレンジ参加を勧奨した。

(7) チームオレンジ

認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座を受講し「認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症ご本人やご家族と一緒に考え楽しむ活動」に参加を希望された方を対象に活動を行った。

活動内容

- ①介護をされている方を対象とした「介護者サロン」
- ②介護サービスにつながらない若年認知症の方、高齢者の軽度認知症の方を対象とした「コミュニティ農園・畑楽」
- ③若年性認知症の方、高齢者の軽度認知症の方を対象とした本人の会「すまいる」
- ④認知症月間、普及啓発の準備
チームオレンジ便り（月1回発行）

チームオレンジ研修会として、救命救急研修会を行った。

実施日	テーマ・講師	参加者
12月7日	心肺蘇生法とAED使用方法 滝川消防署 警防課救急救助係職員	26人

(8) 認知症本人の会「すまいる」

若年認知症の方と高齢者の軽度認知症の方を対象とした、認知症本人の会を開催した。物忘れが心配な方同士で自らの体験や希望などを話し合い、本人のやりたいことの実現のため、チームオレンジがパートナーになり活動した。

	内容	本人	家族	ボランティア	その他	職員	計
第1回	アウトドアレクレーション	5	0	9	1	11	26
第2回	バスレクレーション	3	0	7	0	10	20
第3回	多世代で昔あそび	5	0	12	37	9	63
第4回	積み木づくり	4	0	6	0	10	20
	計	17	0	34	38	40	129

(9) 街のおしゃべりサロン「elua (エルア)」

多世代の交流、認知症の理解、普及啓発を目的に誰もが参加でき、閉じこもらずに交流できる場所として、三世代交流センター1階にて、毎月第1木曜日に街のおしゃべりサロン「elua (エルア)」を実施した。

街のおしゃべりサロン「elua (エルア)」実施状況(単位:人)

実施日	チームオレンジ	一般	包括	他課	計
8月1日	9	15	5	4	33
9月5日	6	1	5	2	14
10月3日	4	0	5	2	11
11月7日	6	1	5	0	12
計	25	17	20	8	70

(10) コミュニティ農園畑楽^{はたらく}

介護サービスにつがっていない若年性認知症の方と高齢者の軽度認知症の方とご家族を対象としたコミュニティ農園を実施した。

	内容	本人	ボランティア	包括	他課	計
第1回	苗植え	3	23	6	3	35
第2回	菊茶摘み	4	14	7	2	27
第3回	調理試食	3	12	4	2	21
第4回	野菜収穫	4	20	6	2	32
第5回	野菜収穫	5	16	6	3	30
第6回	野菜収穫	6	18	6	3	33
第7回	看板作成	7	11	6	0	24
	計	32	114	41	15	202

(11) 滝川市見守りキーホルダー

認知症によって行方不明となるおそれのある高齢者などの安全を確保し、ご家族や介護する方の負担を軽減することを目的に「見守りキーホルダー」の配布を行った。(令和6年度配布数21個)

(12) 滝川市認知症ガイドブック(認知症ケアパス)

認知症についての理解を深め、認知症のおそれがあるときには、正しく対応ができるよう、認知症についての情報を冊子にまとめた「滝川市認知症ガイドブック」の普及啓発を行った。

(13) 滝川市わんわんパトロール

犬の散歩をしながら、認知症高齢者を見守り、行方不明高齢者の早期発見につなげる「滝川市わんわんパトロール」の登録者に、散歩時に携帯してもらう「わんわんキーホルダー」を配布した。

(登録者総数98人 うち令和6年度新規25人)

わんわんパトロール登録者と高齢者見守り安心ネットワーク登録者事業者を対象に認知症高齢者への声かけ、見守りに関する研修会を実施した。

実施日	テーマ・講師	参加者
8月4日	わんわんパトロール&高齢者見守り声かけ研修会 グループホームコスモス主任 前川 幹治氏	12人

6. その他の事業

(1) 家族介護者の支援

介護者サロン

家庭で認知症等の介護を行う介護者に対し、介護に関する知識の提供及び介護者同士の交流を通し心身のリフレッシュ・介護者の疲れの軽減・介護者の悩みの軽減を図ることを目的に開催。介護者とは別室で被介護者を預かり、介護者が参加しやすい体制づくりに努めている。

介護者サロン実績（単位：人）

	介護者	被介護者	オレンジ 倶楽部	その他	計	内容
第1回	21	3	13	6	43	介護技術について
第2回	16	4	14	6	40	音楽療法
第3回	19	4	10	6	39	椅子ヨガ
第4回	8	2	8	6	24	モルック体験
計	64	13	45	24	146	

(2) 成年後見制度の申し立て支援（単位：件）

6年度	1
5年度	3

(3) SOSネットワークシステム（単位：人・件）

	登録者	検案件数
6年度	127	1
5年度	118	2

(4) 滝川市はいかい高齢者等位置探索システム助成事業（単位：件）

	申請数
6年度	0
5年度	0

(5) 高齢者虐待の相談支援（単位：件）

	相談件数
6年度	5
5年度	6

(6) 権利擁護に関する研修会（単位：人）

高齢者の健康増進・介護予防や権利擁護のための知識の普及を目的に研修会を開催した。

実施日	テーマ・講師	参加者
9月18日	講義：地域で支える家族介護～認知症と虐待予防について～ 北海道医療大学看護福祉学部マネジメント学科准教授 宮本 雅央氏	48人

(7) 地域リハビリテーション活動事業

作業療法士が中心となり、介護予防の取り組みを総合的に支援するために訪問、事例検討会、地域ケア会議等へ出席した。

◎ 介護予防係

1. いきいき百歳体操地域体操教室

	会場	回数(回)	参加者延べ人数(人)	サポーター延べ人数(人)
1	まちづくりセンター	46	1,279	331
2	スポーツセンター	41	577	177
3	扇町地区コミュニティセンター	44	669	181
4	農村環境改善センター	48	1,573	283
5	泉町福祉会館	42	370	261
6	西和会館	48	585	124
7	朝日町地区福祉ホーム	49	529	258
8	啓南団地集会所	48	354	146
9	東滝川地区転作研修センター	49	508	273
10	北地区コミュニティセンター	47	776	225
11	音楽公民館	50	564	336
12	三世代交流センター	42	587	187
13	幸町地区コミュニティセンター	50	666	193
14	江陵団地集会所	36	407	200
15	緑地区コミュニティセンター	49	479	229
16	みずほ団地集会所	49	546	226
17	朝日町7区町内会館	52	358	295
18	一の坂団地集会所	35	320	135
19	銀川団地集会所	47	586	184
20	一の坂会館	49	564	281
21	三世代交流センター北地区分館	46	979	408
22	11丁目福祉会館	49	652	211
23	中地区コミュニティセンター	47	640	210
24	東地区コミュニティセンター	49	853	402
25	見晴団地集会所	50	726	277
26	大町地区コミュニティセンター	46	416	272
	合計	1,208	16,563	6,305

2. いきいき百歳体操地域体操交流大会

内 容	表彰者(人)	参加人数(人)
いきいき百歳体操交流大会	1	85

3. いきいき百歳体操サポーター支援・学習会

内 容	回 数(回)	参加延べ人数(人)
いきいき百歳体操サポーター養成講座	3日間×3期	37
サポーター学習会・スキルアップ講座	2回	93

4. 介護予防講座

内 容	回 数(回)	参加者延べ人数(人)
低栄養予防講座（元気になる食生活講座）	1	23
初心者向けウォーキング講座	1	48
自宅でできる筋力アップ講座	1	41
市民向け健康づくり講座（講師：薬剤師会）	2	74
口腔ケア講座（老人クラブ等）	11	151
地域介護予防講座（いきいき百歳体操会場）	33	653

5. 介護予防出前講座

内 容	回 数(回)	参加者延べ人数(人)
団体・介護保険事業所等	2	19

6. 高齢者家庭訪問（介護福祉課作業療法士）

内 容	実人数(人)	延べ人数(人)
住宅改修・福祉用具等相談	122	174

7. 老人クラブ巡回相談（10 か所）（介護福祉課看護師）

内 容	延べ回数(回)	参加者延べ人数(人)
健康相談・健康教育	119	1,194

令和6年度 認知症初期集中支援チーム活動報告

チーム員構成

認知症初期集中支援チーム員：認知症看護認定看護師(滝川市立病院看護師)
地域包括支援センター保健師・社会福祉士
認知症サポート医：滝川市立病院精神神経科医師
その他：認知症地域支援推進員、介護福祉課職員

1. チーム員会議の開催

表1 会議実施数(単位：回・件)

	回数	検討事例数
令和6年度	4	4
令和5年度	7	9

※会議未開催で対応のみ：2事例

表2 事例の年齢構成(単位：人)

	男	女	合計
～69歳			
70～79歳	1		1
80～89歳	1	1	2
90歳～	1	2	3
合計	3(2)	3(2)	6

表3 世帯構成(単位：件)

単身	高齢者 夫婦	その他	合計
2	0	4	6

※その他：息子同居、娘同居、配偶者と息子夫婦同居
配偶者と娘同居

表4 相談経路(単位：件)

本人	家族(同居)	家族(別居)	知人・隣人	関係機関※	合計
0	2	0	0	4	6

※民生委員(3)
保健センター(1)

表5 介入結果(単位：件)

認知症の診断に至った	1
介入時に診断あり	1
主治医のもとで経過観察	4
継続受診なし	0
合計	6

表6 その後の経過(単位：件)

チームでの支援終了	4
(内訳)介護保険サービス利用	1
医療機関に入院	1
包括の継続事例として支援	2
継続支援	2

相談経路としては関係機関からの相談が多く、関係者との関係構築が出来ていたためと考える。

介入時、すでに家庭内で高齢者虐待が起きていたり、自宅外を徘徊している等の緊急対応が必要な事例があり、会議開催を待たずに、医療機関への入院や介護保険サービスの導入に繋げた事例があった。

独居の事例では、短期記憶の低下や幻覚・妄想症状がみられるものの、生活能力は比較的保たれており、現在の生活を継続出来る事を目標に介入した。今後は継続支援にて生活状況を確認し、認知機能低下に伴い問題が生じ、早急な対応が必要になった場合には医療機関とスムーズに連携出来るよう努めたい。

家族同居の事例では、認知機能の低下がきっかけで家族内で不和が起きている事例が多かったが、家族から相談があったのは半数で、他は関係者が認知症の兆候に気付いて相談された事例だった。介護者である家族がいても、適切な介護がされていなかったり、家族からSOSを出せない事例があるため、今後も関係者と協力して見守りを行い、注意して関わる必要があると考える。

今後も情報をキャッチしたらチーム員で訪問し、介入のタイミングが来たら速やかに対応できるようにしていきたい。

2. 普及・啓発活動

地域包括支援センターのパンフレットに、認知症初期集中支援チームも含めた認知症関連事業を掲載し、関係機関に配布する他、高齢者実態調査等の事業を通して市民に配付。「認知症に関する相談は地域包括支援センターへ」を繰り返し伝えている。

令和6年度 地域ケア個別会議実施報告

1. 地域ケア個別会議

(1) 参加者

地域住民、民生委員、医療機関看護師、居宅療養管理指導薬剤師、病院 PSW、作業療法士、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター

(2) 地域ケア個別会議の開催

表 1 会議実施数(単位：回・件)

	回数	検討事例数
6年度	1	1
5年度	0	0

表 2 事例の年齢構成(単位：人)

	男	女	合計
80 歳代	0	1	1
合計	0	1	1

表 3 世帯構成(単位：件)

単身	高齢者夫婦	その他	合計
1	0	0	1

表 4 検討課題の分類(重複有)(単位：件)

①個別課題の解決	1
②ネットワーク構築機能	1
③地域課題の発見	0
④地域づくり・資源開発	0
⑤政策形成につながりそうなもの	0

独居高齢者。物の紛失や被害妄想があり、親族の協力が得られない事例。ご本人の特性を理解し、地域と関係者が情報共有を図りながら見守る。地域包括支援センターが情報の集約先となることを確認した。

2. 自立支援型地域ケア会議

(1) 参加者

【事例提供者】 地域包括支援センターおよび市内居宅介護支援事業所介護支援専門員

【専門的助言者】 薬剤師・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士・栄養士

【関係者】 地域包括支援センター管理者・主任介護支援専門員・生活支援コーディネーター
地区担当保健師・保険者（介護福祉課介護保険係・介護認定係・高齢者福祉係）

【事務局】 司会・書記

【オブザーバー】 地域包括支援センター職員・市内介護支援事業所等

(2) 自立支援型地域ケア会議の開催

表 1 会議実施数(単位：回・件)

	回数	検討事例数
6年度	11	22
5年度	11	22

表 2 事例の年齢構成(単位：人)

	男	女	合計
60 歳代	0	0	0
70 歳代	2	4	6
80 歳代	3	11	14
90 歳代	0	2	2
合計	5	17	22

表 3 世帯構成(単位：件)

単身	高齢者夫婦	その他	合計
9	11	2	22

表 4 介護度

支援 1	支援 2	介護 1	合計
3	11	8	22

要支援者のサービス利用者を中心に、自立支援や介護予防の観点を踏まえ高齢者のQOL向上に結びつけることを目的としているが、課題に対する専門職からの助言により、支援者および参加者全体の資質向上につながっている。

令和7年度 滝川市地域包括支援センター事業計画

1. 介護予防の推進と実態把握

住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らせるよう要支援・要介護になる前からの介護予防を推進する。

介護予防に関する啓発や虚弱高齢者の把握や早期発見を行う。

2. 総合相談

介護サービスにとどまらない、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関との連携または制度の利用等の総合的な支援を行う。

3. 認知症総合支援事業

認知症予防の普及啓発、早期発見と対応、認知症になっても安心して暮らせる取組を行う。

4. 権利擁護支援

高齢者が安心して暮らせるために、成年後見制度の紹介や虐待を早期に発見し、消費者被害防止など必要な援助を行う。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

主治医や介護支援専門員、地域の関係機関等の連携、在宅と施設の連携など多職種相互の協働等による連携を行う。

地域における個々の介護支援専門員に対する個別指導や相談、困難事例への指導助言、医療機関を含む関係機関や様々な社会資源との連携・協働の体制整備を行う。

6. 地域ケア会議

個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を把握し、地域づくり、資源開発を目指す。

7. 介護予防支援事業所・介護予防ケアマネジメント

介護保険の要支援1・2の認定者・事業対象者に介護予防支援サービス計画・介護予防ケアマネジメントを作成する。

本人の状況に応じたサービス計画を作成し、事業所や関連機関との調整を行い、生活支援を行う。

8. 在宅医療・介護連携推進事業

地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供する体制を整備する。

9. 生活支援体制整備事業

地域における支え合いの体制づくりを整備する。市町村が中心となり、元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として参加する住民主体の活動団体、地域運営組織、NPO法人、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協同組合、民間企業、シルバー人材センター、介護サービス施設・事業所、老人クラブ、家政婦（夫）紹介所、商工会、民生委員等の多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進していくことを目的とする。

1. 介護予防の推進と実態把握

一般介護予防事業

①介護予防把握事業

介護予防対象者を把握し、相談事業や情報収集しながら適切な介護予防事業につなげる。

- 75 歳以上健康実態調査

75 歳以上で介護サービスを利用していない在宅高齢者に対して、基本チェックリストによる健康調査を行い、虚弱高齢者を発見し、介護予防事業へつなげる。虚弱な高齢者には再度地域包括支援センター職員が状況確認を行い、必要な相談対応へつなげる。健康調査に入る前に、地区の民生委員と情報交換し連携していく。

- 介護予防事業を通しての把握

事業参加者に対して、基本チェックリストを実施する。

- 本人や家族からの窓口や電話での相談
- 主治医や民生委員など関係機関や地域からの情報提供
- 要介護認定における非該当者の情報

②介護予防普及啓発事業

- 介護予防講座（一般市民向け）

地域住民が要介護になりやすい疾患やフレイルについて正しく理解し実践することにより要介護への移行を抑える。

初心者向けウォーキング講座、自宅でできる筋力アップ講座、睡眠と睡眠薬について、シニアの元気になれる食生活講座（低栄養予防）

- 介護予防講座（いきいき百歳体操参加者向け）

いきいき百歳体操参加者が、健康維持のための知識やフレイルについて正しく理解し実践することにより要介護への移行を抑える。

フレイル予防、高齢者口腔ケア教室、低栄養講座、人生会議ミニ講座、いきいき百歳体操おさらい会、介護保険サービスの利用方法、その他ミニ講座

- ますますげんき教室（委託事業）

虚弱高齢者を対象に三世代交流センターにて、週1回以上の外出機会をつくり運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、閉じこもり予防やうつ予防などの事業を行う。

週2回開催（水・木）のいずれかの曜日1回 通所（年80回）

各利用者に対し、体力測定等評価し健康状態を確認する。

- シニア向け運動プログラム「元気アップ」（委託事業）

高齢者の介護予防と健康増進を目的として、運動開始のきっかけづくりと運動の継続のために運動教室を実施。

年2クール（1クール12回）

運動実技（筋力・転倒予防）、介護予防ミニ講座

- 介護予防出前講座

一般高齢者を対象に、介護予防に役立つ基本的な知識の普及・啓発を行う。地域の団体からの依頼をうけて、健康や介護・福祉の講座を行う。

- 老人クラブ巡回健康相談

滝川市老人クラブ連合会に所属する会員に対して、看護師が巡回し血圧測定を含めた健康相談と健康教育を行う。（16か所中11か所実施）

③介護予防活動支援事業

- いきいき百歳体操（地域体操教室）

地域住民が集まって主体的に、いきいき百歳体操（運動器の向上）とかみかみ百歳体操（口腔機能向上）に取り組み交流することで、高齢者が自ら介護を予防するための教室を継続して実施できるよう支援する。

実施会場の支援（26か所）、新規教室開催の支援

- いきいき百歳体操サポーター養成講座

いきいき百歳体操を支援するサポーター（ボランティア）を養成、基本的知識や実技を学ぶとともに、介護予防の普及啓発を行う。

※介護事業所職員も対象とする。

年2回 1回3日間コース

- いきいき百歳体操サポーター学習会

いきいき百歳体操サポーターの介護予防や各会場運営についての情報交換年1～2回実施。

④地域リハビリテーション活動支援事業

作業療法士が中心となり、通所・訪問・地域ケア会議・サービス担当者会議・住民運営の通いの場等の介護予防の取り組みを総合的に支援する。

⑤介護予防サロン事業

高齢者の健康の維持、要介護状態の予防につながる住民主体の通いの場の開催者に対し、高齢者の参加人数に乗じた補助金を交付し、開催を支援する。

⑥介護予防・生活支援サービス事業

要介護状態等となることを予防するため、歯科衛生士や栄養士が訪問し、口腔ケアや栄養状態の改善を短期集中的（3～6か月）に行う。

- 短期集中訪問型サービスC（口腔ケア・栄養改善）
自立支援型地域ケア会議等で必要と判断されたケースに対して、介護支援専門員がケアプランを立案し、歯科衛生士・栄養士の訪問を計画的に行い、アセスメント、評価し、早期対応に努める。

2. 総合相談

①高齢者や家族、地域で暮らす人々が、地域で安心してその人らしく生活できるように介護、福祉、健康、医療に関する様々な情報提供や相談支援を行う。

- 地域で抱える困難事例の相談をうけ、様々な関係者とネットワークを図る。
- 把握した情報収集を基に個別訪問や地域で孤立している高齢者、重層的な課題を抱えている世帯などの高齢者・家族の相談を受ける。
- 各種制度の説明や申請の代行を行う。
- 各病院・医院等と連携し、在宅生活について総合的支援を行う。

3. 認知症総合支援事業

①認知症予防の普及啓発事業

- 認知機能低下予防の考え方や日常生活で取り組みやすい効果的な認知機能低下予防対策など認知症に関する知識の普及啓発を行うため、依頼に応じた出前講座等も含めた普及啓発活動を実施する。9月の認知症月間には、「おれんじフェスタ」として滝川高校・滝川西高校・滝川工業高校・滝川市高等看護学院生にも企画から参加してもらい、幅広い世代向けのイベントを開催する。
- 空知自動車学校にパンフレットを配置するなど、市役所以外での相談・普及啓発の場を設ける。
- 犬の散歩をしながら、認知症高齢者等の見守りを行う「わんわんパトロール」を呼びかけ、協力してくれる「わんわんサポーター」を登録し、登録者には散歩時に着用するキーホルダーを配付する。

②認知症予防事業

- 認知症予防教室の全市的な展開を図るため、地域交流の場にもなっている介護予防講座や地域体操教室を活用し、認知症予防講座を実施。日常生活の中で参加者が持続して取り組めるような認知症予防メニュー（歩行、人と会う、対話、音読等）を紹介、介護予防効果とともに認知症予防効果を高める。

③認知症初期集中支援チーム

- 認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートに取り組む。

④認知症予防支援グループ「チームオレンジ」

- 認知症予防活動や認知症本人・家族支援に関心を持ち、認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座を受講した市民と、認知症本人が、認知症について正しく理解し、認知症があってもやりがいを持っていきいきと生活が続けられるよう、普及啓発活動や本人家族支援活動を行う。

⑤物忘れ・認知症相談

- 予約制で、物忘れ・認知症の個別相談を実施。認知症の不安や心配がある方、物忘れは気になるけど病院に行くほどでもないという方などにタッチパネルで簡易に物忘れの兆候を測定する「物忘れ相談プログラム」（簡易 5 分・通常 20 分）を来所相談の他、訪問による相談により実施する。

⑥認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座

- 認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」を養成する。
- 認知症サポーター養成講座受講者に対し、ステップアップ講座を行い、その中からチームオレンジ活動への参加者を募る。

⑦認知症カフェの運営支援

- 認知症に関する情報交換や相談、認知症の知識の普及などを目的に、認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加できるカフェの運営を支援する。

⑧滝川市徘徊（はいかい）高齢者等 SOS ネットワーク事業

- SOS ネットワーク事業の推進
徘徊の恐れのある高齢者について登録し、関係機関や警察と連携を図ることで早期に搜索し保護する。登録者には、見守りキーホルダーを配付。
- 徘徊高齢者等位置探索システム事業
徘徊高齢者等の位置を確認するためのシステムに係る購入費用、初期の利用開始に伴う経費の一部助成。

⑨認知症ガイドブック（認知症ケアパス）の普及啓発

- 認知症の人とその家族に、生活機能障がい（障害）の進行に併せ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けることができるのか、具体的な機関名やケア内容を提示するもので、その普及啓発に努める。

⑩介護者サロン

- 家族で認知症等の要介護者を介護している家族に対して、介護に関する知識の提供及び介護者同士が交流することで、「心身のリフレッシュ」「介護者の疲れの軽減」「介護の悩みの軽減」を図る。（年4回実施）

⑪介護者向け機関誌（おれんじ通信）

- 介護者サロンの報告や各種情報等を提供し、介護者の交流等を図る。

⑫認知症本人・家族への支援

- コミュニティ農園 畑楽（はたらく）
介護サービスにつながない若年性認知症や高齢者の軽度認知症の方を対象に、畑作業を通じて健康づくり、気分転換、交流、役割づくりにつなげる。
- 認知症本人の会 すまいる
認知症本人がやりたいことを実現へ向け、チームオレンジがパートナーとなる。今年度は「おれんじ会議」で企画・準備から行い、10月の外出行事「すまいるゴー」を実施。
- おれんじ会議
チームオレンジ（認知症本人・サポーター）が、認知症事業の内容についての話し合いや、普及啓発事業で配付予定の積み木の作成を行う。チームオレンジが主体性を持って活動できることを目指す。街のおしゃべりサロン elua（エルア）定例開催は休止。
- 介護事業所、医療機関の協力を得ながら、認知症本人の発した声、思いを聞き、有効な対応について広く周知していく。
- 認知症本人・家族に向けての事業について、関係機関と連携し、必要な方へ情報が伝わるようにする。

4. 権利擁護支援

①認知症等で判断力がなく身内がいない高齢者が、身体や生活に障害がある場合、権利擁護に関する支援を行う。

- 成年後見制度の利用に関わる相談支援や、成年後見人申立ての費用等の助成を行う。

②成年後見支援事業

- 成年後見実施機関業務（滝川市社会福祉協議会委託）
成年後見制度に関する相談対応、普及啓発、市民後見人活動支援、関係機関

との連携調整。運営委員会の実施、法人後見受任、市民後見人の活動支援、普及啓発。市民後見養成講座を受講した市民後見人に対するフォローアップ研修実施。

③滝川市高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク

- 高齢者虐待に関する通報等情報収集を行う。
- 適宜支援会議を開催し、関係機関と連携することで適切な支援を行う。
- 令和7年度代表者会議を開催予定。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

①地域の介護支援専門員の日常的な業務が円滑に行えるように支援する。

- ネットワークの構築
在宅・施設を通じた地域における包括的・継続的なケア体制の構築を行う。
- 医療・主治医との連携
医療機関を含めた関係機関との連携を行う。
- 事業所ネットワーク会議
地域の介護・医療・福祉の関係機関のネットワークを構築し、関係機関の情報交換や研修等を行う。（会議2か月に1回、研修会年1回開催）
- 相談窓口の設置
地域の介護支援専門員が抱える支援困難事例について適宜、具体的な支援方針を検討し、指導助言を行う。
- 地域の居宅介護支援事業所と小規模多機能型居宅介護事業所の介護支援専門員とで、困難事例等の事例検討を行い、資質向上を推進する。（年3回）

②高齢者見守り安心ネットワーク

- 企業・事業者と連携しながら高齢者を見守り、異変時の連絡・通報により、すみやかに対応するためのネットワークを進める。内容をホームページへ掲載。

6. 地域ケア会議

①地域ケア推進会議

- 地域包括支援センター運営協議会を地域ケア推進会議と位置付け、地域課題の把握・解決・地域づくり資源開発・政策形成を行う。

②地域ケア個別会議

- 当事者、家族、地域住民、保健医療・介護福祉等の専門職など、必要に応じて招集する。

- 個別ケースの支援方法を多職種で検討する事により、高齢者をはじめとする地域住民の課題解決を支援する
- 介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力の向上を図る。

③自立支援サポート会議（自立支援型地域ケア会議）

- 主に要支援の方に対して、自分の役割やできることを維持・継続するとともに、できそうなことができるようにし、健康的な気持ちや笑顔が増えるための支援を多職種で検討する。年 10 回定例で開催する。

7. 介護予防支援事業所・介護予防ケアマネジメント

- ①介護保険の要支援 1・2 の認定者・事業対象者に介護予防支援サービス計画・介護予防ケアマネジメントを作成する。本人の状況に応じたサービス計画を作成し、事業所や関連機関との調整を行い、生活支援を行う。（一部居宅介護支援事業所に委託）

8. 在宅医療・介護連携推進事業

- ①医療ニーズと介護ニーズを併せもつ高齢者を地域で支え、医療機能分化の推進の動きに併せながら、在宅医療・介護連携のための体制の充実を図るため、滝川市医師会等の協力を得て、滝川市在宅医療・介護連携会議と医療・介護関係者の研修会を行う。

9. 生活支援体制整備事業

- ①生活支援コーディネーターは地域へ出向き、現状あるものや新規のもの等地域資源を把握する。地域包括支援センター職員と連携し、虚弱高齢者や要支援者が抱えているニーズに対し、地域資源とのマッチングや資源開発を行い、高齢者の自立支援に向けた介護支援専門員のケアマネジメントを支援する。
- ②滝川市全市を第 1 層、市内 7 つの地域を第 2 層とし、生活支援コーディネーターを中心に職員が担当地区を持ち、それぞれの地域に合った支え合いの体制づくりを考える。滝川支え合い会議（第 1 層協議体）は、各地区の情報共有・情報交換・連携強化の場として必要時開催する。
- ③東滝川、第二小学校区、江部乙の第 2 層協議体について、活動状況の把握と情報共有、行事（江部乙町高齢者の集い 乙な集い）を共同開催する。その他の地域でも、様々な団体・個人と情報交換し、関係する人達とのつながりを持つ。

④近隣の生活支援コーディネーターとの情報交換、研修等を通じて、最新の動向や他自治体の活動についても情報収集を行う。

⑥滝川市立高等看護学院、國學院大学北海道短期大学部と連携し、通いの場や認知症事業にボランティアとして参加する学生を繋ぐ、学生ボランティア「チアフル」を行う。
また、看護・介護を目指す市内高校生と看護学生が、認知症普及啓発事業イベントの企画・運営を通じて、認知症や高齢者に対する理解を深め、今後の進路や地域活動に活かす目的で「ケアLabo」を行う。

その他事業（健康づくり課・高齢者福祉係・介護認定係）

①住宅改修・福祉用具に関する相談・情報提供・連絡調整等の実施、助言、住宅改修費の支給申請に関わる支援を行う。

- 住宅改修等訪問（介護予防係）

理学療法士・作業療法士が同行訪問し、住宅改修・福祉用具について指導助言を行う。

②一般高齢者に対する健康事業（運動・栄養・口腔）（健康づくり課）

③高齢者が住居する集合住宅を対象に、日常生活上の生活相談や安否確認、緊急時の対応支援を行う。

- 見守り住宅（見晴団地）（高齢者福祉係）

安否確認をする。

④65歳以上の高齢者で低栄養のおそれがある方に食生活の改善のための支援を行う。

- 食の自立支援事業（高齢者福祉係）

夕食を配達することで安否確認を行い、食事について栄養改善を行う。

⑤地域の高齢者が自立して日常生活できるように必要な支援を行う。

- 生きがいと健康づくり（高齢者福祉係）

老人クラブを対象に、街頭花壇の整備など、ボランティア活動を実施する。

⑥虚弱で生活に不安のある高齢者を対象に安否確認を行う。

- 友愛訪問サービス（高齢者福祉係）

一人暮らしの高齢者に対し、乳酸飲料を訪問にて届けることで安否確認する。

⑦重度の要介護者を在宅で介護する家族に対しての支援を行う。

- 家族介護用品支給事業（介護認定係）

要介護3以上の排泄全介助の要介護認定者を在宅で介護している介護者に対し、おむつ購入のための介護用品購入券を交付。

- リフト付きタクシー等利用料助成事業（介護認定係）

要介護3以上の寝たきり又は歩行困難で、移動にストレッチャーや車椅子を必要とする要介護認定者に対し、受診時のリフト付きタクシー利用のためのタクシーチケットを交付。

⑧支えあい・いきいきポイント事業（介護支援ボランティアポイント事業）

- 40歳以上の方が市内の介護施設などでボランティアを行うとポイントが付き、たまったポイントを交換できる仕組みとなっており、ボランティア活動を通じて社会参加や地域貢献をすることで、ご自身の生きがいづくりや介護予防につなげることを目的としている。
- 一般的なボランティアのほか、健康づくり活動として市内26か所で行われている「いきいき百歳体操」の65歳以上の参加者も対象としている。

令和7年度 滝川市地域包括支援センター事業予算概要

令和7年度介護保険特別会計（保険事業勘定予算）（職員人件費除く）

歳出

1. 新しい介護予防・日常生活支援総合事業

37,381 千円

（1）介護予防・生活支援サービス事業 11,854 千円

①介護予防ケアマネジメント

会計年度任用職員人件費（ケアマネ2名分）・健康診断・ケアプラン作成委託料等

（2）一般介護予防事業 17,574 千円

①地域リハビリテーション活動支援事業 3,020 千円 ②介護予防把握事業 3,394 千円

③介護予防講座 191 千円 ④老人クラブ巡回相談 4,464 千円

⑤高齢者運動推進事業 2,470 千円 ⑥ますますげんき教室 4,035 千円

（3）地域介護予防活動支援事業 7,953 千円

①いきいき百歳体操・交流会・サポーター養成講座 7,218 千円

②サロン補助事業 735 千円

2. 包括的支援事業（地域包括支援センター運営費）

33,455 千円

（1）包括的支援事業 14,238 千円

（総合相談事業、権利擁護事業、包括的・継続的マネジメント事業）

（2）包括的支援事業新規4事業 19,217 千円

（認知症関連事業、地域ケア会議、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業）

3. 任意事業

5,541 千円

（1）任意事業 5,391 千円

（家族介護支援事業、認知症サポーター養成講座事業、はいかい高齢者等位置探索システム事業
成年後見制度利用支援事業）

（2）補助事業 150 千円

（権利擁護人材育成事業）

4. 保健福祉事業

3,732 千円

成年後見制度利用支援事業（社会福祉協議会委託費分）

令和7年度介護保険特別会計（サービス事業勘定予算）

介護予防支援事業所 歳入

1. 介護予防サービス計画作成費他

17,786 千円

（1）介護予防サービス計画作成費 17,755 千円、雑入 31 千円

※令和6年度 ケアプラン総件数 6,982 件（うち介護予防サービス計画 4,142 件）

介護予防サービス計画作成数 月330件 予定

※上記以外は、総合事業の介護予防ケアマネジメント事業（保険事業勘定）において作成

介護予防支援事業所 歳出

1. 介護予防支援事業所事業

17,786 千円

（1）会計年度任用職員人件費（ケアマネ3人分）

13,121 千円

（2）ケアプラン作成委託料・ASP 使用料・医療系保険者端末導入経費

3,496 千円

（3）その他研修会受講料、消耗品等

1,169 千円